

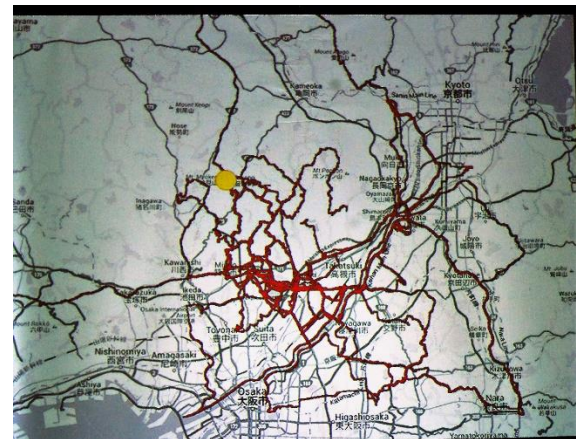
日本探検・10日間の自転車の旅・茨木→桜島 (2016/04/07)



今日の講師は雷研究者のマイケルストックさん。大阪大学でお仕事をされています。ニューメキシコ州ソコロ出身。2015年1月に来日。奥様（キャサリン）と2匹の猫とで茨木市内にお住まいです。I I Nでの講義は専門分野のカミナリ談義に引き続き、今回は2度目です。マイケルさんの趣味は雷、音楽、写真、そして「自転車」です。

マイケルさんは来日以来、自転車で近所はもちろん、京都府や奈良県にもたくさん行っておられて、まずはそのお話もして下さい

ました。「自転車で行くならこの道」などのお勧めコースや観光スポットなどもご紹介下さいました。今までに走ったコースを赤く塗った地図が右図です。本当にたくさんサイクリングをしていらっしゃいます。そして奥様は時々そのコースを電車で追っかけて合流して一緒に食事などをするというスタイルです。妙見山は上り坂が続くので訓練用に良い、山田池公園へは遠い場所なのに寒い時期に行き、常に顔に冷たい風を受けて一番大変だった事もあったそうです。



今回の自転車旅行は同じ趣味を持つお父さん（この自転車旅行の為に3月20日に来日されて自転車やジャージも日本で購入）と一緒に旅です。奥様も列車で追っかけて合流するいつものスタイルで3人旅の日もあり、日本人でも知らないようなたくさんの景色や経験を満喫されました。



長距離用に適したサイクリング専用自転車をお持ちですが、この旅行の際には、後部にカメラ、ハンドル上にはマップコンピューターを追加。ナビマップは以前使っていた携帯電話の地図では充電問題とかもあり、新しい物に交換されて充電時間は大幅に短縮しました。

今回の「10日間の自転車旅」のコースの概要は、茨木→姫路→岡山→尾道→松山→宇和島→宿毛→（フェリー）→佐伯→高鍋→都城→桜島。帰路は電車に自転車を積んで戻って来られました。一日おおよそ100キロ走ります。観光の関係で長く滞在する場所とただ走り抜ける場所とがあったそうです。ご一緒に走るお父様は昔から自転車での遠乗りをされていて、夏にワシントンシティーからボストンまで遠乗りした経験もお持ちです。一般的には国道を走りますが、トラックと並走するより、名も無き道をわざと選んで走るのがお好き。予期せぬ景色や障害、例えばイノシシ警告表示（通過する時はフェンスの開閉をする）、通行禁止表示、廃線道路、抜けられないトンネル、などなど、何事も大変楽しんでおられます。今回は桜前線との併走でもあります。蕾から満開まで、良い時期に旅しておられます。

お話の全てを載せる事は出来ませんが特に興味深い経験をされた事だけを選んでみました。

姫路への途中に「route 65 カフェ」があり、ハンバーガー店があった。かの有名なルート66を彷彿させます。気になったのですが今回は立ち寄らず、何時の日か入ってみたい、面白そう。お父様はサイクリングの栄養補給にはソフトクリームを良くお食べになるそうで、日本ではどこでも容易く買えるし、今回は塩味のソフトクリームとかも二人で食べて美味しかった。桜前線は茨木から九州へ行くという事は桜は常に2日分早くなる。

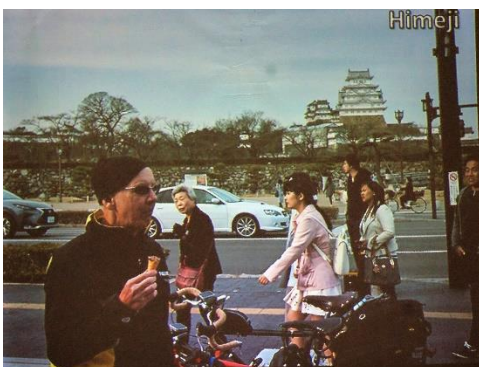


閉園前に滑り込んだ岡山城の庭園（後楽園）などは木々の配置の配慮・整備が素晴らしく、観ていて楽しい。園内の橋の組み方のデザインなどは、一見たまたまこうなっている風に見えて実はとても配慮されている、危険な様だが興味深い。この様な配置意匠の工夫は見ていて飽きない。ここの桜はまだ咲いてなかったが枝ぶりが空に向かって踊っているみたいで美しかった。

海岸線を走りながら漁の仕掛けらしき杭を見たり、高昌寺の涅槃像を見たり。朱い鳥居の草戸稲荷神社の写真を父が甥っ子に見せたら、ゼッタイに忍者城だと言ったそうです。

大きな丘の上の小さな「尾道ビューホテル」は本当に文字通り眺めが良かった（前日止まった「岡山ビューホテル」はノービュー）。夕飯は伝統的な日本料理では無く、タイ人夫婦も泊まっていたのでタイ料理を食べた。

自転車やバイクは渡ってはいけない橋もあり（たいていの橋は自転車でも走れる）、そんな場合は小さなフェリーを利用します。バイク一台、原付一台、自分たちの自転車2台、あと車も2台、とかです。大きな豪華な橋を車と併走したり（完全に分けてあるので危険では無い）、橋の下を走ったり（車は上とか）もします。豪華な橋を自転車で渡るのは実に楽しい。橋から眺める海の青色、島の上の神社の姿などの美しさに自転車を度々停めて堪能。



松山城は昔からのままの姿で残って居る（オリジナル）数少ないお城の一つで骨董好きのキャサリンさんは姫路城より良いとの評価です。もし機会があれば是非是非お勧めしますとの事です。宇和島の和霊神社近くの公園ではキャサリンはじっくりと蒸気機関車を鑑賞。（写真はお父さん）

キャサリンは電車ですのでゆっくりと宇和島城を見たり、たまたま2年に一回のお祭りの日で、町の人達や子供達の武士の装いなどを楽しんだりしました。がマイケルさんとお父さんは小さな漁師町の景色や田んぼの平和な苗植え風景を見ながら急ぎ気味に走る。途中のトンネ

ルが通行不可で、回り道をする時間が足りなくなるので強硬突破（トンネルを覗きこむと車が通行を塞いでいたが隙間をすり抜けた？）しキャサリンと合流したが、バス停からフェリー乗り場へは3キロもあり、彼女の大きな荷物を自転車に積む事になって大変だった。

この旅で一番楽しかった日となった佐伯・泊では、築100年以上と言う古い旅館「茶蔵」に泊まった。夜7時半頃に着いたら旅館の全員が外で火を囲んで牡蠣を焼いていて、私達を仲間に誘ってくれ、焼酎、酒、干物、そして食べた事が無い海鼠（sea cucumber）までもすすめられた。父は特に小さな部屋でフトンや湯沸かし器のある景色に興奮し朝には暖かいコーヒーが飲めて大喜びだった。旅館の人と一緒に写真もたくさん撮った。とても良い旅館で是非お勧めだ。



高鍋での晩ゴハンは桜がいっぱい飾られた居酒屋で、美味しかったがメニューが日本語のみで拙い日本語で注文に苦労した。

都城でも居酒屋に行き、冒険的食事の鶏の刺身を食べた。鶏の内臓は料理されたものより生の方がおいしいと思った。

桜島では一日目は天候に恵まれなかったが翌日には噴火は見る事が出来て良かった。



帰路は3人で新幹線を使って（自転車もいっしょに）戻って来た。茨木に戻って翌日万博公園に行ったが桜は満開でとても美しかった。

父は4月2日に無事にアメリカへと飛び立った。彼は機会があれば又こんな旅をする事だろう。



Q & A

1、 お父様のサイクリング歴は？

→はっきりとはわからないが、大学生の頃から自転車にテントなどを積んで出かけていたようだ。僕が子供の頃の記憶でも既にあちこち父と一緒にサイクリングに出かけていたし、だんだん遠くへも行くようになり、僕が高校生の頃には両親がボーイスカウトの長距離サイクリングで島から島へと言う様な企画などもしていた。父と一緒にの旅行中に橋の桁の隙間（気温差での伸縮を考慮してわざと隙間を作っているのだ）にすっぽりとタイヤが落ち込んで転倒して腕を骨折したことがある。いずれにしる父のバイク歴は長い。

2、 計画を立てる時に要する時間などは？ 計画中が楽しいのでは？

→事前にどの道で行くのかを選択するのはワクワクしますし、綿密な調査をします。国道の様な主道路より小さな脇道の方が楽しい。茨木周辺のサイクリングではかなり無茶な選択をしてアクシデントを起こしてもすぐ取り戻す事が出来ますが、今回の道程はあまり冒険を侵さず比較的無難なルートを選択しました。計画する段階が一番楽しいかもしれません。どこに行っても写真はたくさん撮って来ます。

3、 sea cucumber ?

→海鼠（ナマコ）。ウニよりおいしい。カボスを添えて食べる。

4、 お父様の好きな日本食は

→たいていのものは食べる。お魚が一番好きで麺類は普通。今回で鶏刺身も覚えた。

5、 雨の時の対処は？ 予定変更とか？

→自転車を畳んで電車に乗ったり、レインコートを用意して出るのでそれを着たりです。

6、 帰りは電車でしたが自転車はどのように？

→電車で自転車を載せる許可申請とかはしてないし、誰からも注意とかも受けない。

7、 NHK・BS で日本国内を自転車で旅行する朝の番組がありますがご存じですか？

→知らない。朝の番組を見るのは（仕事があるので）難しい。

